和歌山県立医科大学附属病院広報誌

まんだらげ

Vol.35
2016 WINTER

広報誌「まんだらげ」の名称について
和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華（まんだらげ）」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

Photo：南部梅林（南部町）

理念
私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針
1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のこもった医療を行います。
2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

Contents

新年のごあいさつ
特集／リウマチ・膠原病科開設
TOPICS／遺伝外来診療開始
全身性エリテマトーデス治療薬
脳内物質形成不全を画像化
お知らせ／冬の脱水症、市民公開講座ほか
診療科紹介／小児科、放射線科

新年のごあいさつ

理事長・学長
岡村 吉隆

多方面から高評価を受け、さらなる新しい改革を

新年あけましておめでとうございます。

平成27年は和歌山県立医科大学が創立70周年を迎えた大きな節目の年でした。また、紀の国わかやま国体・わかやま大会、高野山開創1200年記念大法会など、大規模な行事が相次いだ年でもあり、医師や看護師の派遣など積極的な医療支援に携わりました。

さらに、県の医療拠点としての役割を果たすため、「形成外科」と「リウマチ・膠原病科」の2つの診療科の開設、臨床研究センターの本格始動など、質の高い医療や研究を拡充できる施設やサービス、人材を整えることを実現しました。臨床研究センターは今後、施設面や人員体制をより充実させ、臨床研究中核病院の承認を受けることを目標にしています。

平成28年は医学教育の国際認証取得、医療の場面での英語でのコミュニケーション力の強化、米国や中国など海外の医学部との交流に力を注ぎ、世界基準での医学評価を得られることを目指します。一方で、関西地区の医学部を有する公立大学4校と私立大学4校とが協定を結び、関西地区での医療分野の協力強化の実現に向けても検討しています。

平成27年の「DPC（包括医療費支払い制度）」の機能評価係数Ⅱが全国80大学病院中2位、「臨床研修マッチング」が79施設中4位と様々な面で高評価をいただいています。その期待にお応えできるよう、新しい歴史を切り拓く所存でございます。

病院長・整形外科教授
吉田 宗人

健全な運営と高度な医療を提供する環境づくりを目指して

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

当院は、高度先進医療を担う「大学附属病院」としての機能と、県民の医療を担う「県立病院」としての機能と、2つの特徴を兼ね備えています。

昨年は県下に患者数が多く、要望の声が多く挙がっていた「リウマチ・膠原病科」を開設しました。今春からは関連診療科と共同した「リウマチ・膠原病センター」を設置し、適切で高いレベルの診療が行えるようになります。「形成外科」も開設され、機能面のみならず外見面においても、より美しく修復する最先端の治療を受けられます。

また、病院全体としても、最新機器を導入し、医師をはじめとした医療スタッフが力を合わせてより高度で行き届いた医療を提供しています。

さらに県内の医師不足対策として設けられた県民医療枠・地域医療枠の第一期生が平成28年春に研修期間を終え、県内各地において現場に立ちます。マンパワー不足を補うだけでなく、今後の和歌山県の医療の指導的・中心的な役割を担う人材として、大いに期待しています。

今年も皆様に当院を快くご利用いただくため、最先端の治療や設備の導入、手術室や病床、専門医や技師、スタッフなどの適切な人材の確保や育成など、あらゆる面を見直し、健全な運営と高度な医療を提供できる環境づくりに臨んでいく所存です。

2016年 新たなる年の幕開けに当って

副院長・第二内科教授
一瀬 雅夫

日頃の御厚情、心より感謝申し上げますと共に、謹んで新春の御慶びを申し上げます。

県民の皆様、そして、私共医療人にとりまして待望の医療事故調査制度が昨年発足致しました。本制度には課題も有りますが、私共と致しましては新制度を足掛かりに医療安全確保を目的に一層の体制強化・提供する医療の質の向上へと繋げて参る所存でございます。

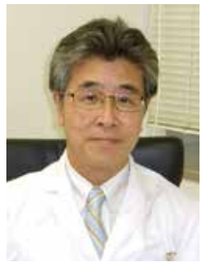
一方、昨年より将来の医療供給体制を視野に、地域医療構想の検討が本格化しております。

また、時代の要請に適った専門医育成を目標に、新専門医制度の立ち上げが、今年、佳境を迎える事になります。県立医大附属病院としては、これら様々な課題に積極的に取り組むことで県民の方々の御期待・御信頼に応え、自らの責務を果して参ります。

本年も変わらぬ御支援、何卒宜しく御願い申し上げます。

医療人と臨床研究の推進で県民医療の中核を担う

副院長・リハビリテーション科教授
田島 文博



謹んで年始のご挨拶を申し上げます。新しい年が皆様にとって佳き年でありますようお祈り申し上げます。

本年も当院職員一同は、地域医療の充実、よりよい医療人育成と臨床研究の推進により、県民医療の中核を担っていきたく存じます。昨年、県民待望の診療科も新設され、基本領域の診療科が整備されました。今後、医療情報が一元化され、地域の先生方と当院がシームレスに連携する仕組みが構築されます。また、今年は医療費抑制圧力が一層強まりますが、経営力を強化し、医療の質の低下を防がなくてはなりません。

私どもは、今年も最善の治療と医療サービスの一層の向上に努力いたします。本年もよろしくお願い申しあげます。

地域病院と連携し良質な医療を提供

副院長・脳神経外科教授
中尾 直之

あけましておめでとうございます。

附属病院の東棟新設にともなう中央手術部の増室と、血管内治療と外科手術を組み合わせた治療ができる『ハイブリッド手術室』が整備され、はや2年目を迎えようとしています。これらの充実した装備に伴い手術件数が着実に増加しています。

本年も地域病院と連携しつつ、県民の皆様に良質な医療を提供すべく、一層の努力を続けていきたいと思います。

地域連携の強化と看護の継続

副院長・看護部長
岡本 恭子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年も患者さんやそのご家族に安心して頂ける、安全なケアが提供できることを目標に提供体制等充実してまいります。

昨年は、看護師特定行為の指定研修機関として全国14施設が厚生労働省から指定されました。一部の研修機関では、昨年10月から研修が開始され、看護師の活躍する場、必要とされる場はますます拡大されています。大学病院として、病気や障害を持ちながらも地域で生活できることを支え、地域連携をより一層深め充実していく所存です。

特集

新たに開設、入院診療もリウマチ・膠原病科

個々によりその症状や重症度、治療法が大きく異なるリウマチや膠原病。県内に専門科設置を望む声が挙がっていた中、10月に「リウマチ・膠原病科」を開設。今後、関連診療科と共同して診療するリウマチ・膠原病センターも立ち上げ、適切な治療法を提供していきます。

専門医を軸に関連診療科と連携、質の高い医療を提供

リウマチや膠原病は、関節の痛み、発熱、発疹、など複数の症状が体全体に広がる「全身性自己免疫疾患」です。個々によりその症状や重症度、治療法が大きく異なることが特徴で、どのような種類や状態であるのかを専門医に診断してもらい、その症状に適した治療を受けることが重要です。

「リウマチ・膠原病科」について解説する吉田病院長

記者の質問に答える藤井教授

しかし、リウマチ・膠原病専門医が全国に4734人いる中で、和歌山県内は26人（日本リウマチ学会2015年3月1日付け登録数）と極めて少なく、県医師会などから専門科設置の要望が寄せられていました。

昨年10月8日に行われたリウマチ・膠原病科開設に係る記者会見で、リウマチ・膠原病科学講座の初代教授となる藤井隆夫教授は「『高齢者だけの病気』『不治の病』などの誤報に惑わされないよう、症状や治療法など正しい知識を提供し、病気で苦しむ患者さんのお役に立ちたい」と話しました。

また、今春には「リウマチ・膠原病センター」も立ち上げ、「リウマチ・膠原病科」を中心に、整形外科、皮膚科など関連する診療科と共同して診療することも発表しました。「さまざまな症状に対応できるよう、大学病院ならではの他科との連携で取り組んでいきたい。」と、同席した吉田宗人病院長は意気込みを述べました。

取り扱っている主な疾患（専門分野）

- 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、全身性血管炎、混合性結合組織病、血清反応陰性脊椎関節症、ベーチェット病、再発性多発軟骨炎、リウマチ性多発筋痛症、成人スティル病、回帰性リウマチなど
- 何週間も持続する原因不明熱（38度以上）
- きっかけがわからない関節痛、筋肉痛、皮膚症状

教授就任挨拶

和歌山におけるリウマチ・膠原病診療の拠点をめざして

リウマチ・膠原病科 教授
藤井 隆夫

昨年10月1日付で、医学部 リウマチ・膠原病科学講座（附属病院 リウマチ・膠原病科）教授を拝命いたしました。私にとって和歌山は初めての土地ですが、たいへん光栄なことと感じています。

残念ながら和歌山は、リウマチ・膠原病診療の専門医が極めて少ない県とされてきました。当診療科は、地域の先生方と連携を行いながら、「和歌山県におけるリウマチ・膠原病の中心施設」としての役割を担うことを目的としています。

関節リウマチ診療はここ10年で大きく変わりました。しかし最新の薬剤はコストがかかり、特別な副作用もおこりえます。一方、膠原病では多くの合併症に留意しないといけません。私は、慶應義塾大学・京都大学医学部附属病院において、常にリウマチ・膠原病診療および研究に携わってまいりました。その専門知識と実地経験を最大限に活かし、わかりにくい病気や治療法を患者さんに丁寧に説明するとともに、適切かつ最新の治療の提供を心がけるようにいたします。また、県下で初めての専門入院施設もスタートします。どうぞよろしくお願いいたします。

経 歴

平成元年	慶應義塾大学医学部卒
	慶應義塾大学大学院医学研究科（内科学）入学
平成5年	應義塾大学大学院医学研究科（内科学）修了
	慶應義塾大学医学部内科学教室 入局（専修医）
平成7年～平成10年	アメリカYale大学医学部 留学
平成12年	慶應義塾大学医学部内科学 助手
平成13年	京都大学医学部附属病院 免疫・膠原病内科 助手
平成16年	京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学 講師
平成21年	京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学 准教授
平成23年	京都大学大学院医学研究科リウマチ性疾患制御学講座（京大病院リウマチセンター）特定准教授
平成26年	同　特定教授
平成27年	和歌山県立医科大学医学部 リウマチ・膠原病科学講座 教授

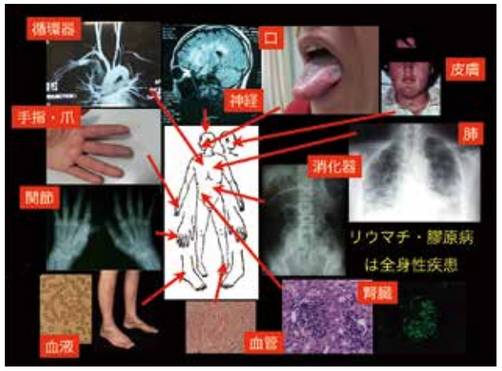
専門科ならではの技術と知識で最善の治療を目指す

今回当院に新設された「リウマチ・膠原病科」では、分かりにくい疾患や治療法について丁寧に説明し、適切かつ最新の治療を提供することを心掛けています。

例えば、同じ病名であっても今すぐ入院して治療した方がいいケースもあれば、薬をほとんど必要としない軽症例もあります。一方、すでに長期にわたって治療を継続している場合は、薬物治療を「寛解導入（激しい炎症を強力に押さえる治療）」と「寛解維持（病状が安定したら、副作用に注意して最小限の薬剤で治療を継続すること）」の2段階に分けて考えることも多く、また病気が落ち着いていても、使用されている薬剤の副作用（感染症や骨粗鬆症など）に継続して注意を払うことが重要です。

このように多岐にわたったさまざまな症状の確認や治療法を、専門科ならではの技術と知識で正確に診断し、またほかの科と連携することで、総合的な治療を提供していきます。

多くの診療科との連携が必要



TOPICS

遺伝外来診療開始

当院では、このたび遺伝外来を開設し、本年１月６日（水）より診療を開始しました。

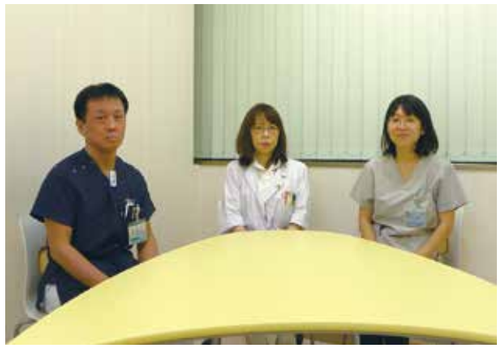
臨床遺伝専門医資格を持つ、総合周産期母子医療センター 南佐和子准教授、熊谷健講師、太田菜美助教の３名が毎週水曜日に診療しています。

診療項目は、遺伝性乳がん卵巣がん症候群、NIPT、羊水検査です。

受診を希望される方は、まず、県内の産科診療所及び分娩取扱い施設、乳がん取扱い施設を受診してください。診療所よりカウンセリングと診療の申し込みをしていただきます。その後、当院にて遺伝カウンセリングを受けていただき、遺伝子診断を希望する方に対しては遺伝子検査を行います。

遺伝外来で行われる診療に必要な費用は、保険適用がなく、自費診療になります。

遺伝性疾患を持つ患者さん、あるいはその可能性を持つ方、ご家族に対してその後の選択を自らの意思で決定し、行動できるよう臨床遺伝学的診断、医学的判断に基づき適切な情報を提供し、支援してまいります。



診療を担当する医師

遺伝カウンセリング

診療項目	内　容
遺伝性乳がん 卵巣がん症候群	BRCA1 あるいは BRCA2 という遺伝子に変化があると、乳がんや卵巣がんなどのリスクが高くなることが、近年わかってきました。この検査では、遺伝性乳がん卵巣がんを発病するという生まれながらの体質があるかどうか、採血し、血液から取り出した BRCA1 あるいは BRCA2 遺伝子を調べることによって、より正確に診断します。
ＮＩＰＴ （無侵襲的出生前遺伝学的検査）	妊婦さんの血液中に胎盤由来の胎児 DNA が含まれていることが 1997 年にわかりました。採血し、この胎児 DNA を調べることで赤ちゃんが染色体疾患であるかどうかを調べます。現在、この検査によって調べることができる染色体疾患は 21 トリソミー（ダウン症）、18 トリソミー、13 トリソミーです。 ただし、この検査は確定検査ではないため、陽性となった場合、必ず絨毛検査や羊水検査で確認する必要があります。
羊水検査	子宮内の羊水中には赤ちゃんに由来する細胞が浮遊しており、それを採取し、検査を行います。この検査によって、赤ちゃんが染色体疾患に罹患しているかどうかを調べることができます。NIPT後の確定検査として行われることもあります。

※ NIPT については、診療開始に向け、現在日本医学会へ承認申請中です。

膠原病エリテマトーデスの皮膚病変に有効な治療薬

当院皮膚科 古川福実教授が総括及び皮膚科代表を務める「日本ヒドロキシクロロキン研究会」が、膠原病皮膚病変に対する抗マラリア薬の臨床試験に成功し、昨年９月７日から販売開始されました。

膠原病は、自己免疫システムに異常をきたし、皮膚、関節、臓器などに特有の症状が起こる病気です。

日本では、ステロイド内服による治療が中心でしたが、高血糖、高脂血症など様々な副作用が多く見られました。

海外では、有効性の高い「ヒドロキシクロロキン」の使用が認められていましたが、日本では過去にマラリア治療薬「クロロキン」によるクロロキン網膜症という重篤な副作用が報告され、製造中止となりました。クロロキン改良薬である「ヒドロキシクロロキン」についても承認されていませんでした。

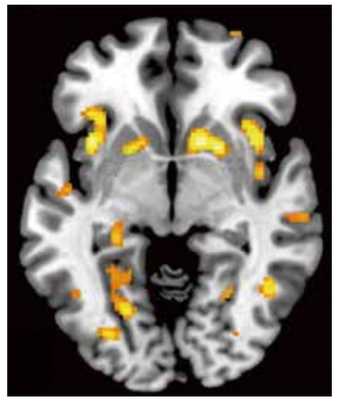
日本での使用に向けて、「日本ヒドロキシクロロキン研究会」が主体となり、全国22施設23診療科が協力した世界初の承認申請臨床試験が行われ無事に終了しました。膠原病エリテマトーデスに対する有効性と安全性が確認され、今後、患者さんの治療に大きな貢献ができるものと思われます。

統合失調症の人の脳内物質形成不全を世界で初めて画像化

統合失調症の原因の一つとして、脳内のミエリン（神経の情報伝達を促進する働きを持つ構造体）の形成不全が推測されていましたが、これまで実証されていませんでした。本院生理学第一教室 金桶吉起教授、神経精神医学教室 篠崎和弘教授らの研究チームは脳内のミエリン量が低下していることを世界で初めてMRI画像で表示することに成功しました。

統合失調症の人とそうでない人の脳をMRIで撮影し、二通りの画像処理をして重ね合わせたものを比較したところ、統合失調症の人が平均で10%ミエリン量が少ないことが確認できました。

統合失調症は、100人に一人の割合で発症するといわれ、主な症状には自閉、認知機能障害などがあります。10代後半から20代前半で発症することが多く、その後一生にわたり療養が必要なため、患者さんやその家族の負担の大きい疾患です。ミエリンの形成不全は統合失調症発症以前からあると考えられており、早期発見できれば社会的意義は大きいといえます。



統合失調症の人の脳ではミエリン量の低下により、黄色の部分で情報伝達信号の低下が起こっています。

お知らせ

お腹にくる風邪、ウイルス感染症による「脱水」に注意しましょう

感染制御部

感染性胃腸炎を引きおこす冬のウイルスの代表が、ノロウイルスとロタウイルスです。発症すると激しい下痢やおう吐の症状がでます。下痢やおう吐は、カラダの防衛作用で、ウイルスを体外に排出しますが、カラダの機能維持に大切な体液を体外に一挙に大量に排出している状態でもあります。

ウイルスによって下痢やおう吐をしたら、その時点で「脱水」を疑い、脱水対策をはじめ、症状が悪化する前に医療機関を受診しましょう。放置していると、体液を失った状態である脱水が進行し、疾患からの回復が遅れるだけでなく、手足のしびれや頭痛といった脱水症状があらわれ、深刻な病気につながることもあります。特に子どもや高齢者は、脱水症の危険性をしっかりと認識し、早めに医療機関を受診しましょう。

ウイルスから起こる下痢･おう吐が引き起こす脱水には、水分とともにナトリウムやカリウムといった電解質を適度に補給しなくてはなりません。水だけを飲んでも脱水症状は改善しません。ナトリウムやカリウムを含む市販の経口補水液を家庭に常備しておくことをおすすめします。

創立70周年記念式典開催

平成27年11月1日(日)ダイワロイネットホテル和歌山において「公立大学法人和歌山県立医科大学創立70周年記念式典」を開催しました。

70年前の昭和20年4月、本学の前身、和歌山県立医学専門学校(和歌山市美園町)が開校し、附属病院は和歌山市民病院(同市七番丁)の譲渡を受けて開院しました(7月空襲で焼失)。更に当時の高島屋和歌山分店(同市九番丁)の建物を買収し、翌年8月に附属病院として開院しました。この地は、式典会場のホテルが、現在、立地している場所に当たります。

終戦後、大学及び附属病院の整備を進め、平成11年5月に紀三井寺の地へ移転するまで、この地を中心に県民の医療を支えました。

式典では、多くの参加者がこれまでの歩みを 振り返り、将来の展望を共有する機会としました。今後、更なる飛躍を目指していきます。

昭和 20 年代の附属病院

医師、看護師派遣について

平成27年7月28日(火)から8月20日(木)の間、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)が行われました。また、平成27年9月26日(土)から10月6日(火)に第70回国民体育大会、10月24日(土)から10月26日(月)に第15回全国障害者スポーツ大会が行われ、全国各地から多くの選手、関係者が和歌山を訪れました。

当院よりインターハイへは医師6名を、国民体育大会、全国障害者スポーツ大会へは医師33名、看護師30名(いずれも延べ人数)を和歌山市、田辺市、那智勝浦町など県内各地へ派遣し、救護所における創傷、捻挫、打撲、熱中症などの処置、治療を行いました。

寄付金の受け入れについて

和歌山市在住の湯川禎三(ゆかわていぞう)様から、医学研究の発展と地域への貢献のために役立ててほしいとの意向で、平成27年11月2日に寄附をいただきました。

当院といたしましては、湯川様の意向に沿った形で、有効に使わせていただく予定です。本当にありがとうございました。

平成27年度　最新の医療カンファランス

和歌山県立医科大学では、月に1度、最新の医療カンファランスを行っています。7月9日(木)に行われた病態栄養治療部　川村雅夫栄養士長による『いわゆる「健康食品」と保健機能食品』では、「いわゆる健康食品」、保健機能食品としての「機能性食品」、「栄養機能食品」、「特定機能食品」のそれぞれの特徴や違い、注意点などについて詳しく解説した後、健康的な生活を送るためには、いわゆる健康食品の過剰摂取は避け、食事の内容をチェックしてバランスのとれた食事をとっていくことが大切と話しました。

次回実施予定は以下のとおりです。みなさまの参加をお待ちしておりますので、ぜひ、お越しください。

最新の糖尿病診療

第一内科学教室　古田 浩人

我が国の糖尿病患者数は年々増加しており、60歳以上では男性の20%、女性の12%の方が糖尿病です。糖尿病の発症予防や治療には、食事療法、運動療法、薬物治療が重要であり、それらに関する、最新の話題をご紹介させて頂きます。

「食欲」はどこから生まれるのか

第一内科学教室　有安 宏之

生きるために必要な栄養分を摂取する行為『食べること』は、すべての動物が生まれながら持っている本能によって調節されています。今回は、私たちの体にもともと備わっている摂食調節のしくみについて講演いたします。

【日時】3月10日(木)午後2時から午後4時まで
【場所】和歌山県立医科大学
生涯研修センター研修室(図書館棟3階)
【定員】一般県民100名(無料)

【会場案内】
バスをご利用の方　医大病院または医大病院前バス停下車
電車をご利用の方　JR紀三井寺駅西口から徒歩10分
車でお越しの方　有料駐車場完備

※内容、演者につきましては都合により変更する場合もありますので、予めご了承ください。

がん患者･家族、県民のための公開講座

「家族ががんに…その時どうする?」
～乳がんの妻と共に闘った夫からのメッセージ～

『ママが生きた証』著者
乳がん患者家族　放送作家　小松 武幸 氏

【日時】平成28年2月27日(土)
14:00～16:00(受付開始13:30～)
【場所】県立図書館 メディア･アート･ホール
和歌山市西高松1丁目7－38

【定員】200名程度(入場無料)
(定員になり次第締め切り)
申込必要(電話またはファックスにてお申し込みください。)

【申し込み･問い合わせ先】
和歌山県立医科大学附属病院　地域連携室
TEL 073-441-0778 ／ FAX 073-441-0862
(FAXの場合、お名前、お電話番号、関係機関の場合ご所属、職名および県民講座受講希望と明記のうえ、お申し込みください。)

小松氏からのメッセージ

今後、日本人の2人に1人ががんになると言われる今だからこそ、根本からがんに対する考えを見直す必要性があると感じています。

とりわけ、患者とその家族の関係において･･･。

もし、愛する人ががんになった時、家族はどんなサポートをすべきなのか?

愛する人とどうやって一緒に病気と闘っていけば良いのか?

29歳妊娠5か月の時、突然、余命1年の乳がんを宣告された私の妻と、それを支えた私のエピソードを基に、お話できればと思います。

診療科紹介

小児科

新生児から思春期まで、和歌山県の小児の専門医療を担っています。

全国的に小児科医が少なくなり、小児科医の激務がTV番組などで特集されていますが、幸い和歌山県立医科大学小児科は、多くの小児科医がおり、活気にあふれています。

感染症が主体であった一昔前と比べて、小児疾患は多様化しています。出生体重500g未満の超未熟児などを治療する総合周産期母子医療センターの新生児グループ、川崎病の治療や、心臓血管外科とタイアップして先天性心疾患を治療する心臓グループ、骨髄移植などの高度治療を小児センターで行う血液グループ、各種腎疾患の診断治療と、疾患についての研究を行う腎臓グループ、てんかん･重症心身障害者の治療から摂食障害･思春期心身症の治療まで幅広く診療を行う神経グループの５つの専門グループに分かれ、それぞれ専門医が治療にあたっています。

新教授体制となり、さらに活気あふれる小児科をめざしています。

教授就任挨拶

小児科 教授
鈴木 啓之

私は、平成27年11月1日付けで、和歌山県立医科大学小児科の第７代教授に就任いたしました。今、その職責の重さに身の引き締まる思いです。

小児科は言うまでもなくあらゆるジャンルの子どもの病気の診断、治療を担当する、小児の総合診療科です。近年、小児科の『専門分化』の流れにより当小児科でも腎臓、神経、血液･悪性腫瘍、新生児そして循環器の５グループに分かれ、それぞれのグループが、専門領域の先進医療に取り組んでいます。和歌山県下の最重症疾患の診断･治療に向き合い、日々向上心をもって取り組んでいます。

一方、和歌山県の不断の課題である小児救急や地域医療にも真正面から取り組んでいるところです。“医学は厳しく、医療は暖かく”をモットーに和歌山県の小児医療に取り組んで行きたいと考えております。

経 歴

昭和56年	和歌山県立医科大学医学部卒業
昭和58年	社会保険紀南総合病院小児科　医員
昭和61年	和歌山県立医科大学附属病院 臨床研究医
昭和62年	和歌山県立医科大学医学部小児科学講座　助手
昭和63年	和歌山県立医科大学医学部検査診断学講座 助手
平成4年 ～平成6年	University of Texas Medical Branch Department of Physiology and Biophysics（米国）留学
平成11年	和歌山県立医科大学医学部小児科講座　助手
平成12年	同　講師
平成17年	同　助教授
平成19年	同　准教授
平成27年	同　教授

放射線科

スタッフが一丸となって、質の高い放射線診療を提供していきます

放射線診療は、画像診断、画像下治療(IVR)、放射線治療の３つの柱から成り立っています。画像診断では、320列CTの出現により、心臓の冠動脈の評価や大腸の仮想内視鏡などが可能になりました。IVR治療では、肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術、活動性出血に対する動脈塞栓術、胃静脈瘤や肝性脳症に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術(BRTO)、大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術(EVAR TEVAR)などを行っています。放射線治療では、リニアックを用いた肺癌、乳癌、骨転移の治療に加えて、トモセラピーを用いた頭頸部癌、脳腫瘍に対する強度変調放射線治療(IMRT)やイリジウム線源を用いた前立腺癌、子宮頸癌に対する組織内腔内照射なども行っています。

放射線科医師、診療放射線技師、看護師が三位一体となって、質の高い放射線診療を提供していきます。どうぞ安心してお任せ下さい。

教授就任挨拶

放射線科 教授
園村 哲郎

平成27年11月に和歌山県立医科大学医学部放射線医学講座の教授に就任いたしました。私は和歌山市出身で、昭和61年に大阪医科大学を卒業しました。私の専門は画像診断と画像下治療(IVR)で、放射線科専門医、IVR専門医、マンモグラフィ読影認定医の資格を持っています。趣味はゴルフとテニスで、日頃のストレスをボールにぶつけて発散しています。

東京都立駒込病院では、画像診断の基礎を学びました。岸和田徳洲会病院では、救急疾患に対する画像診断やIVR治療に積極的に取り組み、多くの症例を経験しました。平成21年に和歌山県立医科大学に戻ってからは、冠動脈CT、乳癌の画像診断、肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術、先天性心疾患を持つ小児のコイル塞栓術などに力を入れて来ました。

私は公平で活気のある医局を作り、医局員、放射線技師、看護師と力を合わせて、質の高い放射線診療を提供したいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

経 歴

昭和61年	大阪医科大学医学部卒業
	和歌山県立医科大学附属病院　研修医
昭和63年	和歌山県立医科大学　大学院（内科系）
平成4年	東京都立駒込病院放射線科
平成6年	和歌山県立医科大学放射線医学講座　助手
平成8年	米国スタンフォード大学医学部留学
平成9年	岸和田徳洲会病院放射線科　部長
	和歌山県立医科大学　非常勤講師
平成21年	和歌山県立医科大学放射線医学講座　准教授
平成27年	和歌山県立医科大学放射線医学講座　教授

掲示板

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内（初めて受診される方）～

当院の外来受診は、原則として**「予約制」**とさせていただいております。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて地域連携室にFAX送信してください。

② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。

③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券（受診歴のある方）**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

地域連携室	FAX番号：073-441-0805 受付時間：月～金 9:00～17:00 （土・日・祝日・年末年始を除く）

※毎週金曜日は試行的に18:00まで受付しています。

■ご本人からのご予約

① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。

※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「○○科○○医師」と明記した紹介状をご用意ください。

② **「当院予約センター」**に直接お電話ください。

③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券（受診歴のある方）**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約センター	電話番号：073-441-0489 受付時間：月～金 8:30～16:00 （土・日・祝日・年末年始を除く）

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

看護師・助産師募集中

※募集等詳細につきましては当大学ホームページをご覧ください。
または下記までお問い合わせください。

和歌山県立医科大学附属病院では看護師・助産師を募集しています。

TEL 073-441-0711（事務局総務課）
http://www.wakayama-med.ac.jp
公立大学法人和歌山県立医科大学 和歌山市紀三井寺811-1

病院ボランティア募集

みなさまの温かいお力をお待ちしております。

外来または病棟で、患者さんが安心して治療を受けることができるようボランティアの方を募集しています。

※対象：平日に活動してくださる18歳以上の方
詳細はお問い合わせください。

活動時間
外来①：8時50分～11時30分
外来②：11時50分～14時50分
病　棟：病棟と調整の上決定します。
（活動時間はいずれも調整可能です。）

問い合わせ先
和歌山県立医科大学附属病院
代表：073-447-2300
医事課　ボランティア担当

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
4 他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話しください。
2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

和歌山県立医科大学附属病院広報誌 まんだらげ（vol.35）
2016年1月発行　発行／和歌山県立医科大学附属病院　〒641-8510和歌山市紀三井寺811-1
Tel 073-447-2300
ホームページアドレス http://www.wakayama-med.ac.jp/hospital

＜外来受付時間＞
・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
・再診で予約のある方は指定時間（予約票の記載時間）
・休診日／土曜日・日曜日・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）
※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は平成28年4月です。